

(1) 生徒心得

本校生徒は、学校が学問及び心身の鍛練のための集団生活の場であることを自覚し、自主的で有意義な高校生活を送るよう努めなければならない。また、正しい言葉遣いや明朗な挨拶の励行を心掛け、時間に余裕を持って行動するなど基本的な生活習慣を身に付けなければならない。

1 校内生活

(A) 学習態度

- ① 毎時始業時刻までに指定された席に着席している。
- ② 各時限の始めと終わりには、係りの号令により挨拶をする。
- ③ 私語をせず、真剣に授業に取り組む。
- ④ 各教科とも積極的に予習・復習をする。
- ⑤ 課題や提出物は必ず期限を守る。

(B) 欠席・遅刻・欠課及び早退など

- ① 正当な理由なく、欠席・遅刻・早退をしない。
- ② やむを得ず欠席・遅刻・早退をする時は、事前に保護者が連絡する。また、遅刻の場合は職員室で入室許可証を受け取り、教科担任にこれを提示してから着席する。なお、1週間以上の病気欠席の場合は医師の証明書等を提出する。
- ③ 急病などで欠課・早退をするときは必ず担任に届け出る。

(C) 校内規律

- ① 登校後は許可なく外出してはならない。やむを得ず外出する時は、担任の許可を受ける。
- ② 校舎内では規定の上履きを使用する。
- ③ 校舎内では口笛・奇声・放歌・粗暴な振る舞いを慎み、学校らしい雰囲気をつくる。
- ④ 食事は教室内で所定の時間にとる。校内でみだりに飲食してはならない。
- ⑤ 所持品には必ず記名する。また、下校時には教科書・教具は持ち帰ることを原則とし、予習・復習に専念する。
- ⑥ 原則として、貴重品や多額の現金を学校に持ってこない。所持するときは保管に注意し、貴重品袋を活用する。不必要なもの（雑誌・遊具・菓子類）は持参しない。また、みだりに金品の貸借を行わない。
- ⑦ 職員室等への入室の際は、挨拶などの入室マナーを守り、礼儀正しい態度を保つ。
- ⑧ 特別教室・体育施設等の使用については、関係職員の指示を受ける。
- ⑨ 校舎・校具・樹木などの学校の施設・設備を大切にし、汚損・破壊したときは関係職員に届け出る。破損の理由、状況によっては実費弁償させる。
- ⑩ ゴミを捨てないように心掛け、進んで美化・整頓に努める。
- ⑪ 火気の使用は職員の指導がある場合以外は、絶対にしてはならない。
- ⑫ 携帯電話の使用は、朝読書・朝学習から帰りの SHR まで禁止する。また、歩きながらや自転車に乗りながらの携帯操作－「ながらスマホ」については命を大切にする観点から厳禁とする。

2 登校・下校

- (A) 朝読書・朝学習の開始5分前までには登校し、1日の日課に余裕をもって臨む。
- (B) 下校時刻を守り、やむを得ず帰宅が遅れる場合は家庭に連絡をする。
- (C) 登下校は交通規則を守り安全に心掛け、みだりに寄り道をしない。
- (D) 自転車通学者は、「11-1-3 自転車利用による通学規定」を守り、交通安全に万全を期する。
- (E) 車での送迎では、「11-1-4 車での送迎(駐停車)禁止区域について」の通り本校の定めた駐停車場所_所で乗降する。(校門付近では乗降しない。)

3 校外生活

- (A) 服装・言葉遣い・態度など、本校生徒としての誇りと品位を保ち、明朗・清潔・実直な振る舞いに心掛ける。
- (B) 交通規則、その他の法令・規則を厳守し、違反行為は絶対しない。
- (C) 補導された時は、すぐに学校に申し出る。

4 服装等

- (A) 登下校時には規定の制服を着用する。サブバッグ・マフラー・手袋・防寒着・その他規定されていないものの着用・使用に際しては、本校生徒として品位を傷つけることのないよう十分に留意する。
- (B) 髪は清潔でさっぱりした型とし、染色・脱色・奇抜な髪型等、手を加えることは禁止する。
- (C) 化粧・装身具等は認めない。

5 禁止事項

- (A) 飲酒・喫煙・暴力行為・無免許運転・薬物の乱用等法令により禁止されている行為。
- (B) パチンコ店など高校生入場禁止の場所や、風紀上好ましくない場所への出入り。
- (C) 運転免許の取得。【特別入校申請書：生指様式1-1、一般入校申請書：生指様式1-2】
- (D) 学校の秩序を乱す行為。

6 許可を受ける必要のあるとき（生徒指導室）

- (A) 印刷物の掲示や配布するとき。

7 届出事項（生徒指導室）

- (A) 校外で指導や注意を受けたとき。
- (B) 「生徒理解のための調査票」の記入事項に変更があったとき。
- (C) 金銭・物品の遺失・拾得・盗難にあったとき。【被害届：生指様式2】
- (D) 学校の器具・施設を紛失、または破損したとき。
- (E) 暴行・脅迫・恐喝・押し売り・いたずら電話・迷惑メール・迷惑行為を受けたとき。
- (F) 交通事故で被害を受けたり、他人に迷惑を与えたとき。【事故届：生指様式3】
- (G) 身分証明書（生徒証明書）を紛失、または破損したとき。
- (H) 原則、学業優先のため、アルバイトは行わない。特別の事情がある場合は担任に相談し、生徒指導部へ届け出る。【アルバイト届：生指様式4】

(2) 服装規定

1 男子の制服

(A) 冬期（10月～5月）

- ① 黒の標準学生服とし、体に合った大きさのものであること。襟(左側)に校章のバッジをつける。校章入りのボタンを前に5個、袖に各2個をつける。襟高は適切な長さとする。ラウンドカラーでない場合はカラーをつける。
- ② 上着の中に着用するものは、華美でなく（黒色や紺色が望ましい）、体に合った大きさのもので、学上衣からあまりはみ出ないようにする。
- ③ ズボンは黒のストレート型でベルトをする。体型に合わないズボンは禁止する。

(B) 夏期（6月～9月）

- ① 白のカッターシャツ、または開襟シャツ（左胸にポケット）とする。綿シャツは禁止とする。左胸ポケットに校章プリントのついたもので半袖を主とする。
- ② ズボンは冬期に準ずる。

2 女子の制服

(A) 冬期（10月～5月）

- ① 規定の制服（スカート・スラックス、業者による採寸・仕立て）とし、襟（左側）に校章バッジをつける。長袖の白カッターシャツに規定のリボンをつける。開襟シャツは禁止とする。
- ② 上着の中に着用するものは、華美でなく（黒色や紺色が望ましい）、体に合った大きさのもので、上衣からあまりはみ出ないようにする。
- ③ スカートの丈は膝の中心より下とし、24～28 車ひだとする。

(B) 夏期（6月～9月）

- ① 白のカッターシャツ、または開襟シャツ（左胸にポケット）とする。綿シャツは禁止とする。左胸ポケットに校章プリントのついたもので半袖を主とする。
- ② スカート冬期に準ずる。リボンはつけない。

(C) スラックスについて

- ① 時期に応じて着用することができる。
- ② 原則として、上着（ブレザー）着用時は、白のカッターシャツに規定のリボンをつける。

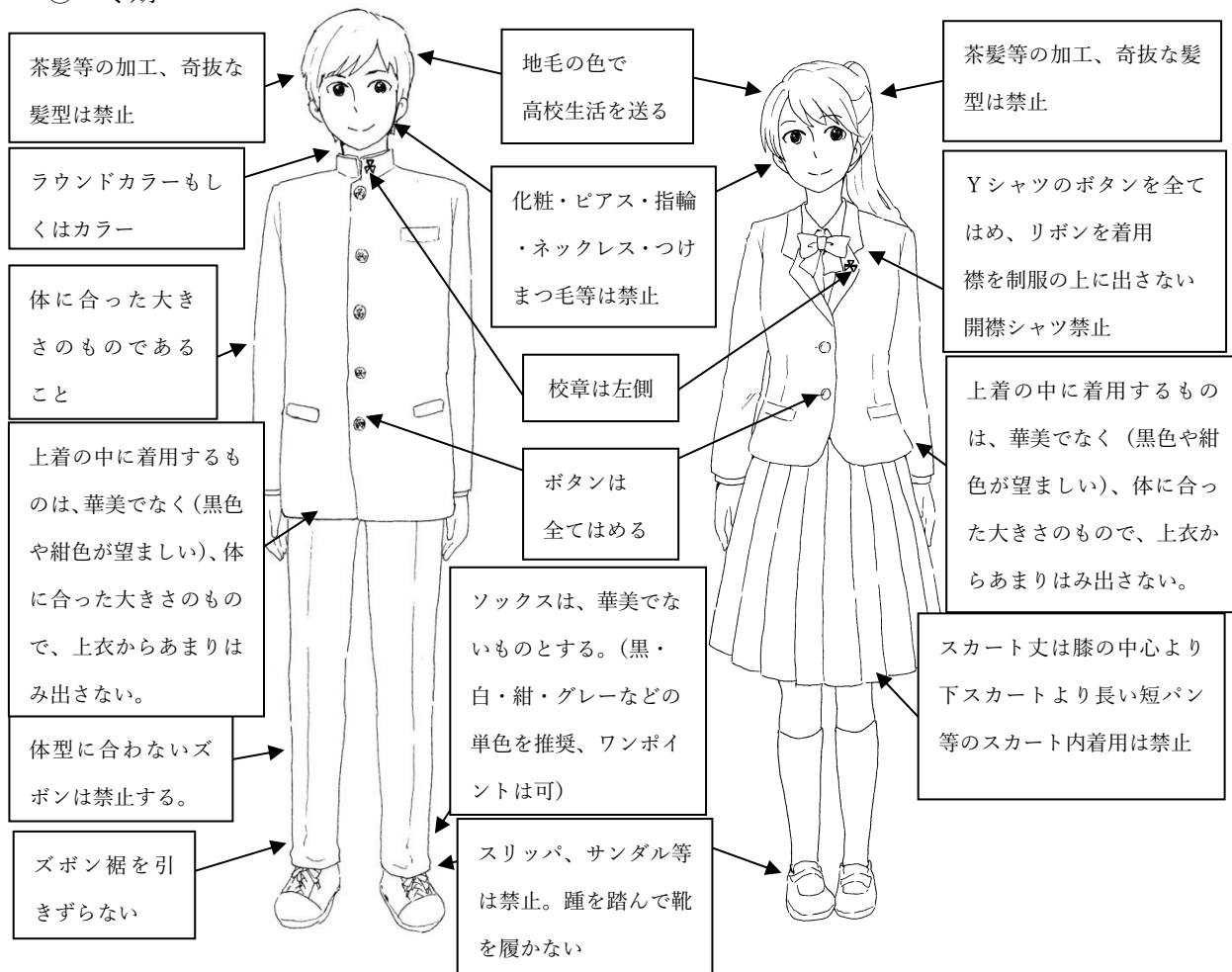
※ 自認する性別の制服の着用を認める。

3 履物等

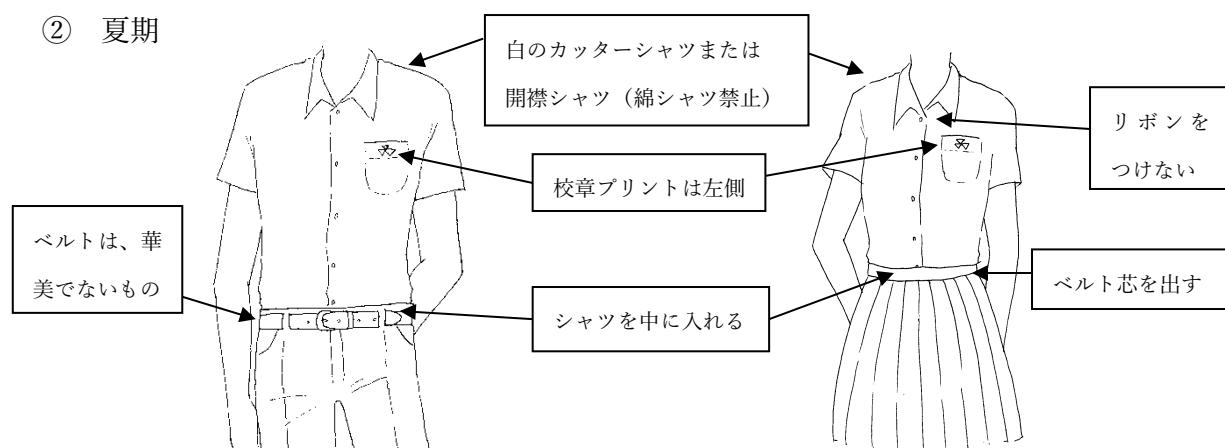
- ① 登下校には、通学に適した靴を履く。スリッパ・サンダル等は禁止する。
- ② 校舎内では、学校が規定した上履きを使用する。
- ③ 女子の防寒用のストッキングは、装飾性のないベージュや透けない黒色を着用する。
- ④ 登下校時の防寒着は男女とも無地を基本とするが、ドライバーからの視認性を高めるために持ち物等に反射材を付けておく。
- ⑤ 長期休業中の登下校時には、制服以外に各部活動のシャツ、またはジャージ等（学校名の入ったもの）を着用してよい。ただし、防寒着はこの限りではない。
- ⑥ ベルトは、華美でないものとする。
- ⑦ ソックスは、華美でないものとする。（黒・白・紺・グレーなどの単色を推奨とし、ワンポイントは可とする。）

4 西高生としての身だしなみ

① 冬期



② 夏期



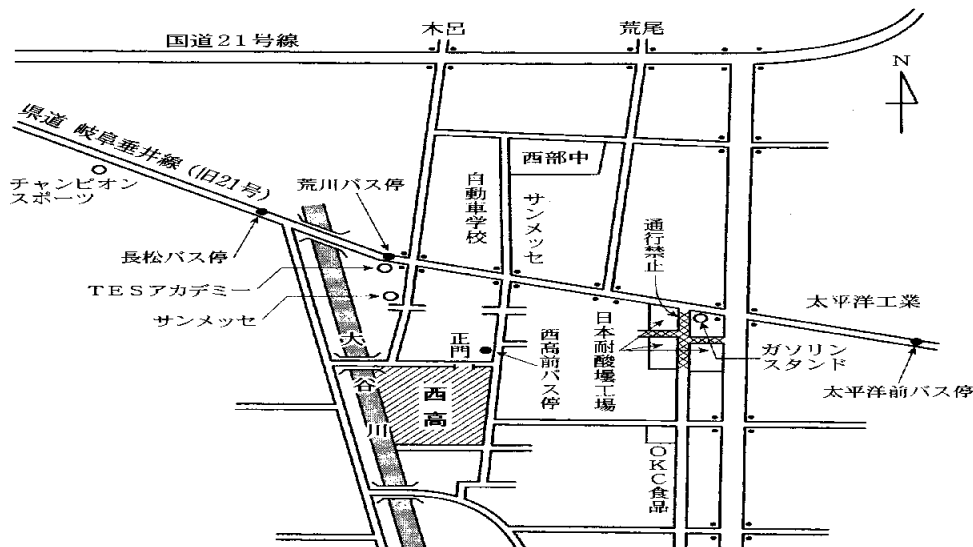
(3) 自転車利用による通学規定

1 通学許可する自転車

- (A) 自転車通学を承認された生徒は、学校の発行するステッカーを自転車の後輪泥よけ後尾に貼付する。
承認については、自転車の構造・雨天時の服装（雨カッパを着用）等の規定に基づいて承認する。（「2 自転車通学の承認について」参照）
- (B) 自転車保険には、必ず加入しておく。（昨今の交通事故から、3年継続で加害者及び被害者の両方に保障のあるものが良い。）
- (C) オートライト付き（自動点灯ライト）自転車に乗るようにする。また、転倒防止・安全確保のため両足スタンド付きの自転車であること。
- (D) 自転車は必ず指定の場所に置き、盗難防止のため必ず二重ロックする。
- (E) 自転車の運転にあたっては、交通規則を守り、自転車の安全点検を行い、常に事故防止に注意する。
二人乗り・並列走行・傘さし運転・無灯火・携帯電話の使用運転等は絶対してはならない。悪質な違反については、自転車通学禁止及び預かり指導をする。
- (E) 許可を受けていない自転車で通学する時は、すぐに申し出て所定の手続きをする。
- (F) 自動車・単車等については、「四ない運動」の「免許をとらない、買わない、乗らない、乗せてもらわない」を厳守する。

2 自転車通学の承認

- (A) 自転車通学を希望する生徒は、学校へ自転車通学許可願を提出して承認を受け、所定のステッカーを自転車に貼る。（ステッカーは4月の自転車点検時に配布する。）
- (B) 使用する自転車は、実用型のものでマウンテンバイクや極端なアップハンドル、ローハンドル、ウィングハンドル等変型ハンドルは禁止する。
- (C) ハブステップは付けない。後輪のフレームに傘を差し込まない。
- (D) カッパは常に携行し、自転車の前後輪のスポークに反射材を取り付ける。
- (E) 最寄りの自転車店で点検を受けた後、『自転車安全点検カード』を学校に提出する。



校則の見直しに関する手続き

- 1 校長は、学校や地域の状況や社会の変化を踏まえ、校則の見直しが必要となった場合、アンケートその他適切な方法で生徒や保護者等からの意見を聴取するとともに、学校運営協議会でその内容について議論するものとする。また、生徒会は、校則の見直しの過程において参画することができる。
- 2 校長は、学校運営協議会等での議論を踏まえ、校則の改正又は廃止について決定するものとする。
- 3 前項の決定にあたっては、議論の経過及び決定理由について、生徒及び保護者に説明するものとする。

※ 校則の見直しについて議論する際は、校則の性質を踏まえること。

【校則の性質】

- ① 学校が教育目的を実現していく過程において、児童生徒が遵守すべき学習上、生活上の規律として定められるものである。
- ② 教育目的を達成するために必要かつ合理的範囲内において制定され、児童生徒の行動などに一定の制限を課することができるものである。
- ③ 制定する権限は、学校運営の責任者である校長にある。
- ④ 社会通念上合理的と認められる範囲で、校長は、校則などにより児童生徒を規律する包括的な権能を持つものである。
- ⑤ 校則の内容については、学校の専門的、技術的な判断が尊重され、幅広い裁量が認められるものである。